

令和4年3月14日

瀬戸市議会議長 宮菌 伸仁 様

総務生活委員長 浅井 寿美

総務生活委員会 行政視察報告書（小牧市）

本委員会は行政視察を実施しましたので、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察期間・行程	令和4年1月17(月) 10:00～11:30 詳細は別紙のとおり
2 視察先	愛知県小牧市 (人口 151,222人 令和3年10月末日現在)
3 視察項目	小牧市の一般廃棄物処理の現状及び課題について
4 視察者及び随行者	視察者 浅井寿美、朝井賢次、小澤勝、石神栄治 戸田由久、山田治義、臼井淳 随 行 内藤寛之
5 その他	

小牧市の一般廃棄物処理の現状及び課題について

<p>1 事業の概要及び事業費</p>	<p>年々増大、多様化するごみを資源化し、環境衛生上支障のないよう処理するため、収集運搬体制の整備と充実に努めるとともに、排出者である市民及び事業者に対して正しいごみの処理方法、ごみの減量・再利用など市の清掃事業への理解と協力を積極的に呼びかけてきた。</p> <p>家庭から排出されるごみは4分別19種類に区分けし、市が収集をしている。事業系及び家庭系多量ごみについては、自己搬入あるいは、市の許可を受けた一般廃棄物処理業者が収集運搬を行っている。</p> <p>処理については「燃やすごみ」「破碎ごみ」「粗大ごみ」及び事業系ごみ・家庭系多量ごみは、小牧岩倉エコルセンターで、その他家庭系資源については、再資源化施設で行っている。</p> <p>令和2年度清掃関係決算 2,678,739千円(一般会計に対する割合 3.5%)</p>
<p>2 ごみの減量について</p>	<p>燃やすごみへの混入が多かった紙類と枝類について、資源として排出していただくよう広報や、自治会回覧、HPやごみ分別アプリなどを活用して周知啓発に努めた。</p> <p>雑紙は月2回から週1回に変更し、ビニールや金属が付着した紙類、感熱紙なども対象とした。</p> <p>剪定枝類は拠点回収場所を2カ所に増やし、搬入用に公用車の無料貸し出しも行っている。ごみ集積場所の剪定枝類も再資源化できるよう収集体制を整備した。</p> <p>生ごみについては、家庭用生ごみ処理機購入費補助金の交付(毎年30基~40基)、市が配布し、その後不要になったコンポストを返却してもらい、中古コンポストとして配布。</p> <p>啓発は広報、HP、ごみ分別アプリ、「転入者用指定袋」、廃棄物適正処理指導員(職員)が巡回訪問。外国人にもていねいに周知啓発しているが、指導対象の3割が外国人。</p>
<p>3 資源物の分別収集について</p>	<p>剪定枝は市外の民間再資源化施設へ運び、破碎処理後チップ化し堆肥などに再資源化している。事業系の剪定枝は排出事業者自身で搬入していただく。</p> <p>容器包装プラスチックは、間違いやすいプラ製品の見分</p>

	<p>け方や混入の多い危険ごみについて周知している。分別には多額の費用を要しているが、4年連続リサイクル率が県下1位であり、意識の高い市民の力添えもあり、循環型社会形成の本旨に基づくリサイクル分別回収は必要不可欠と考える。また「プラ新法」に基づく収集体制を検討する必要があると考える。</p>
<p>4 ごみの有料化について</p>	<p>各家庭の家の前でごみ収集を行う戸別収集を導入する際の受益者負担金を徴収する方法として検討したことがあるが、共同住宅の住民や、狭隘道路沿いで暮らす住民など人口全体の約47%が直接恩恵を受けられないこと、経費が数倍になるとの調査結果を受け、現在は戸別収集の検討を行っていない。今後はごみ排出量やこれに係る処理費用を勘案しながら必要に応じて検討する。</p>
<p>5 考察・所感</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小牧市では雑紙の簡素化、月2回から週1回収集に増やすなど市民の排出利便性を向上させ、資源としての意識の定着を図ったとのこと。また剪定枝類については拠点回収場所を市内2カ所に増やすなど、ごみ減量化における有料化以外の取り組みに行政が真摯に向き合っていると感じた。</li> <li>・(両市共通) 二市ともに、ミックスペーパー、剪定枝や草についても分別収集の対象とし、生ごみ処理機補助などきめ細かい取り組みがされている。また職員もごみ問題と真摯に向き合い、積極的にかかわってきたことがごみ減量の好結果につながっていると感じた。本市においても、有料化のみならず今後の取組を明確にし、より多くの市民のみなさんの理解を含める必要があると感じた。</li> <li>・エコルセンターについて        小牧岩倉エコルセンターでは、溶解炉システムの説明を受けたが、最終処分場の残地いかんによっては、有効な施設であるとの印象を受けた。ただランニングコストが年に億単位でかかり、晴丘センター建て替えの時の導入に関しては調査研究が必要。</li> </ul>